

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

現在の定時制の課程は、これまでの勤労青少年の後期中等教育機関としての役割とともに、全日制高等学校中途退学者や不登校経験者、学習障がい等がある生徒等、さまざまな学習目的や動機を持つ生徒の学び直し場として、また、社会人の生涯学習の場としての機能も果たしている。こうした状況を踏まえ、社会の有為な形成者としての基礎を培う全人教育並びに、生徒一人ひとりの個性を伸ばし、豊かな人間性をはぐくむ教育に努め、次のような生徒を育てることをめざす。

- ① さまざまな困難に挫けず、自分なりのスタイルやペースで自己実現をめざす生徒。
- ② 周囲への気配りを忘れず、思いやりのある態度を備えている生徒。
- ③ 互いを認め合い、共に生きることの大切さを理解している生徒。
- ④ 毎日の生活のリズムを乱さない等、基本的な生活習慣が備わっている生徒。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実

(1) 本校に入学する生徒一人ひとりの興味・関心、能力・適性、進路希望等に対応し、生徒が望む学習と幅広い進路選択ができるよう多様な選択科目を設け、必要な教科で少人数授業・習熟度別講座編成を実施するなど教育課程編成の工夫に努める。また、適切な授業規律の中で授業内容や指導方法、学習教材を工夫することにより、生徒の基礎学力の定着を図るとともに、学力の一層の伸長をめざす。さらに、社会の変化や生徒・保護者等の意見やニーズを踏まえるとともに、次期学習指導要領の答申も踏まえて、生徒が社会で必要とされる学力を身につけられるよう、本校の教育システムの更なる改善・充実に努める。

※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度の肯定的意見（平成 28 年度 78.1%）を毎年引き上げ、平成 31 年度には 85%にする。

※相互授業見学報告研修会、「生徒の視点から授業を見つめ直す」研修、アクティブラーニング研修等、授業力向上に係る校内研修を年間 5 回実施するとともに、校外における研修にも積極的に参加する。

2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援

(1) ホームルーム活動をはじめ学校行事や部活動などの活性化を図ることにより、個々の生徒の自主性を高め、生徒相互の連帯感や協調性を育てて、自分自身を、そして、お互いを尊重しあう精神を養う。あわせて、本校でともに学ぶ中で、違いを認め合いともに生きることの大切さを理解させて、人権感覚を養うとともに、種々の人権学習や体験学習を通じて、グローバル社会において自他の人権を守ることでできる人間の育成に努める。

修学の志を持続させるため、全教職員が個々の生徒の課題や背景を踏まえた上で生徒のサインを的確に捉え、きめ細かく、かつ迅速で適切な対応に努める。

さらに、家庭との連絡を密にして生徒の基本的な生活習慣を確立させるとともに、外部機関との連携を図ることも含めて環境整備に努めつつ、勤労と勉学が両立できる安定した生活を確立する指導を行い、社会で必要とされる力の育成をめざし、生徒が自己実現を行うための支援に努める。

※進学者を除く卒業生の学校斡旋就職率（平成 28 年度 26%）を毎年引き上げ、平成 31 年度には 40%にする。

(2) 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用して中途退学率の低減をめざす。家庭環境などのために学業継続が困難となる生徒に対し、学校と S W が連携して積極的にアプローチし、課題を見極め、福祉や労働などの関係機関とつなげることで課題解決の支援をし、学校への定着を図る。

※平成 31 年度までに、文部科学省が公表する平成 26 年度全国公立高等学校定時制課程の中途退学率の 11.4%以下を目標とする（平成 21 年度から平成 25 年度までの平均 15.2%、平成 26 年度 20.8%、平成 27 年度 18.6%、平成 28 年度 13.9%、平成 29 年度 12.1%）。

3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進

(1) 教職員全員が学校の課題を共有するとともに、教職員一人ひとりの能力を最大限に発揮して、自主的・自律的に教育活動を推進するため、機動性と透明性の高い組織体制の改善・充実に努め、組織的・機能的な運営に努める。あわせて、定時制の教育システム等について、授業公開や校外研修に加え、校内研修の実施や O J T により研鑽を重ね、教職員の資質向上に努める。

※教職員向け学校教育自己診断の関連項目の肯定的意見 90%以上（平成 28 年度 94.4%）を維持する。

(2) 学校 Web ページ等を活用し、保護者、雇用主や地域、中学校等に学校の教育目標や教育活動の実施状況などについて、幅広く積極的な情報提供や働きかけを行い、地域とつながる学校づくりを推進する。また、家庭、地域、中学校、関係機関等との相互理解・相互協力による良好で有効な連携体制の構築を図る。

※保護者向け学校教育自己診断の項目「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率（平成 28 年度 60%）を毎年引き上げ、平成 31 年度には 70%にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】 基礎学力の定着に向けて授業力の向上に取り組んだ。生徒の評価は、「授業はわかりやすい」「質問しやすい」「先生は責任をもって授業にあたっている」「ICT機器の活用」の項目について、いずれも昨年度より肯定的評価が微増している。</p> <p>教職員の評価では「教材・指導方法の工夫」、「参加体験型学習」などで高評価が出ている。しかし、学習指導に関する項目全般では肯定的評価が微減しており、更なる改善が必至という授業力向上への切実な意見ととらえられる。</p> <p>【生徒指導等】 教職員向けのアンケートでは、「生徒の問題行動が発生した場合の組織的対応」、「問題行動の未然防止への取り組み」の評価の肯定的評価が昨年より増加しているが、全項目では下位項目であり、今後の課題である。</p> <p>生徒向けアンケートで肯定的評価が高かった項目は、「奨学金制度についての情報」「先生は責任をもって授業にあたっている」「先生は、お互い</p>	<p>平成 29 年 6 月 22 日（木）19:00～21:00</p> <p>【今年度の重点的な取組みについて協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上の職員研修について効果をどのように測定するのか、職員にアンケートを実施してはどうか。 ・評価するための数値は必要かと思われるが、生徒の入学・卒業によって生徒が変われば、割合（%）も変わり継続する信憑性はどうか。生徒の状況に応じて、学校経営計画も変わるのではないか。 ・教員の人数が少ないのに、良くやってもらっている。 ・教員は教育が中心。専門家と連携をして教育の負担を軽くして、教育に支障が無いようにしていただきたい。 <p>平成 29 年 11 月 30 日（木）19:00～21:00</p> <p>【今年度の取組みについて協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校HPは昨年度より更新はされているが、できるだけ多くの人に見てもらおうように動画や写真等を多くアップするなど工夫をしてみようか。

府立春日丘高等学校

<p>に協力している」であった。逆に低かった項目は「学校に行くのが楽しい」62.7%であり、保護者の同項目「子どもは学校へ行くのを楽しみにしている」は70%と中期教育目標の数値に達したが、生徒がしんどい思いをしながらも頑張って登校し、学んでいる様子が伺える。今後も生徒を一層支援するため、学校が外部機関や専門家と連携し、チームとして機能するような体制を構築していくこと必要であると考え。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダー養成研修については、本当にリーダーを育てる内容になっているのかどうか。 ・中退防止について学校としてよく取り組んではいる。 ・校則について学校協議会で検討することだが、学校生活で守ることについて、現在の生徒は、どのように思っているのか。校則について話し合いの場を持たせてみてはどうか。 ・教育課程に関しては、わかりやすい授業には、興味がわくので、カリキュラムも科目を絞ってわかりやすくするのがよい。 <p>平成30年2月27日(火) 19:00~21:00</p> <p>【今年度の取組みと次年度の計画について協議】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの結果は、上向きであるので良い。 ・保護者用学校教育自己診断は、保護者に郵送して回収数が増えたことは、良かった。 ・部活動の活性化について工夫をしていると感じている教員が少ないがどうか。 →生徒数の減少により部活動を成立させることに苦慮している。 ・平成30年度の学校経営計画は、かなり絞り込まれており、評価できる。 ・学校協議会委員として、ここ数年、准校長の異動が多いと感じている。 ・いわゆる校則はないが、「学校生活で守ること」が明記されており、生徒からも特に意見がなかったとのことで内容も適切であると考え。
---	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成と教育システムの改善・充実</p>	<p>(1) ア 授業力の向上</p> <p>イ 教育課程の一層の充実</p>	<p>(1) ア・論理的思考や探究活動に興味・関心を持つ力、自ら調べ考える力、知識・情報をもとに解決方法を見出す力を持つ生徒を育成するための教育内容の研究・実践を進める。 ・プロジェクターやタブレット端末等、ICTを活用した授業を実施する。 ・帰国渡日生徒への支援を行う。</p> <p>イ・授業力の向上、「分かる」「できる」「楽しい」を実感させる授業の実践・研究を行う。</p> <p>・相互授業見学・公開研究授業等を実施する。</p> <p>・学習指導要領改訂に関する情報を共有し、新たな教育課程の構築に向け検討する。</p> <p>・定時制通信制教育研究会の活動への積極的な参加し、情報交換、意見交換を行う。</p>	<p>(1) ア・授業において、生徒による研究・発表を含んだ取り組みが実施できたか。</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断ICTの活用に係る項目の肯定率が向上したか。(80.5%→85%)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断の関連項目の肯定率の維持できたか。(H28年度94.1%)</p> <p>・保護者向け学校教育自己診断の関連項目の肯定率が向上したか。(50%→65%)</p> <p>イ・授業満足度の向上(授業アンケート3.56P→3.70P)</p> <p>・生徒向け学校教育自己診断の授業関連項目の肯定率の向上。「授業はわかりやすく楽しい」の肯定率を77.6%→80%、「先生に質問しやすい」の肯定率を72.1%→75%にする。</p> <p>・習熟度別少人数展開による授業を実施できたか。</p> <p>・新たに授業見学週間を設け、相互授業見学と研究協議を実施できたか。</p> <p>・授業力向上に係る校内研修を実施できたか。</p> <p>・新学習指導要領に関する研修や新たな教育課程構築に向けた協議が実施できたか。</p> <p>・定通教育研究会の各部会が主催する研修会、及び三部合同の研修会に参加し、校内で伝達講習をしたか。</p>	<p>・情報、家庭科の授業で生徒の発表を実施し、部活動では科学部が全国レベルの大会で研究発表を行なった。今後も探究的な学びを進める。(○)</p> <p>・ICT活用に係る生徒向け自己診断項目での肯定率は86.3%となり、次年度は目標を上方修正して取り組む。(◎)</p> <p>・教職員向け学校教育自己診断の関連項目の肯定率83.3%となったが、保護者向け学校教育自己診断の関連項目の肯定率は72.2%であり一定の評価を得ている。今後は留学生の活用など一層の生徒支援に取り組みたい。(○)</p> <p>・第1回授業アンケート3.61P、第2回授業アンケート3.66Pとなり向上したものの目標を下回り、更なる向上をめざし取組みを進める。(△)</p> <p>・学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定率77.0%「先生に質問しやすい」肯定率74.3%となり維持もしくは向上したものの目標にやや及ばなかった。更なる授業力の組織的な改善を図る。(△)</p> <p>・数学・英語で実施した(基礎/標準クラス)。次年度も継続して実施する。(○)</p> <p>・6月16日～30日、11月15日～24日を授業見学週間とし、その後研究協議を行った。次年度は公開授業にも取り組む。(○)</p> <p>・全5回の研修を実施(研修は充実していた81.8%、授業実践の上で参考になった72.7%)。次年度も継続して研修を行う。(○)</p> <p>・H30年新入生より基礎学力を充実させる教育課程に変更した。次年度以降も検討を継続する。(○)</p> <p>・各部会には定期的に複数名の職員が参加。三部合同研修会には5名の教員が参加、職員会議等で報告するとともにHPにも概略を報告した。次年度も他の定通校との交流を深め、研修参加者を増加させる。(○)</p>

府立春日丘高等学校

<p style="text-align: center;">2 豊かな人間性を持った生徒の育成と生徒の自己実現の支援</p>	<p>(1) ア 基本的生活習慣の確立 イ 生徒の状況把握 ウ 生徒の自己実現の支援</p> <p>(2) ア 中退防止の低減</p>	<p>(1) ア・生徒会、クラス代表等による校内外課題の研修会・交流会を実施する。 ・他校（全日制を含む）の生徒会との交流の拡大をはかる。 ・部活動の活性化に努め、必要な支援を行う。 ・学校行事を充実させる。 ・生徒作品や研究成果の公开发表を拡充する。 イ・校内校外巡回を継続して実施する。 ・禁煙教育、禁煙支援の充実に努める。 ・食育の推進、健康・体力づくりの支援を行う。 ウ・懇談強化月間を設け、生徒や保護者との懇談を通して家庭との連携協力関係を確立する。 ・出身中学校等との連携を強化する。 エ・計画的・系統的なキャリア教育を実施する。 ・就労・社会参加意識を醸成する。 ・就労が必要な生徒への職業紹介を働きかける。 ・自己実現に資する資格取得を支援する。 (2) ア・中退防止コーディネーターを中心とした校内支援体制を確立する。 ・進級率・卒業率を向上させる。 ・中退率を低減させる。 ・S C、S S W等を活用した相談体制を推進する。</p>	<p>ア・生徒会リーダー研修を実施し、20人以上の参加者数。 ・他校との生徒会交流会等が開催できたか。 ・部活動参加生徒率の前年度比向上。(57.0%→60%) ・複数の部が近畿レベルの大会やイベントに出場したか。 ・生徒向け学校教育自己診断の行事に係る肯定率の向上(体育祭81.6%→85%、文化祭82.5%→85%) ・校内外での生徒作品・研究を公開できたか。 イ・全授業日の校内外巡回を実施したか。 ・喫煙生徒率を前年度より下げることができたか(20.4%→15.0%) ・給食喫食者率前年度の15%台を維持できたか。 ・健康診断等受検率の向上(88.2%→90%) ウ・全生徒との懇談を実施できたか。 ・中学校訪問校数の増加(18校→20校以上) エ・HRや「総合的な学習の時間」等を活用して計画的なキャリア教育を実施できたか。 ・在校生の就労状況の向上。1年次の就労率の向上。(61%→65%) ・進学者を除く卒業生の学校斡旋就職率の向上(26%→30%) ・商業と情報に係る検定合格率の向上(52.4%→55%) (2) ア・中退防止コーディネーターを中心とした校内支援体制が確立できたか。 ・生徒向け学校教育自己診断の自尊感情、達成感等に係る項目の肯定率が向上したか(77.7%→80%)。 ・1年次生の2年次への進級率の向上(H28 76%→H29 80%) ・在学4年以内の卒業率の向上(H25年度入学生37.2%→H26年度入学生40%) ・中退率の低減(13.4%→11.4%(全国平均)) ・S S W・S Cによる研修の開催、及びケース会議を年間40回以上実施したか。</p>	<p>・参加者数は15名で目標を下回った。次年度はプログラムを充実させリーダーを育成につながる内容とする。(△) ・生徒会交流会に参加したが開催はできなかった。参加生徒の増加をめざす。(△)。 ・部活動加入率は40.6%となり平成27年度レベルに戻ってしまった。生徒数減少の中、適切な目標設定とともに部活動の在り方そのものを検討する。(△) ・全国大会やイベントに 科学部、陸上部が参加し、科学部は複数の受賞をした。次年度も継続して活動を支援する。(○) ・体育祭83%、文化祭83%であり数値は向上したものの目標には達しなかった。行事の実施時期や在り方等を再検討する。(△) ・校内では文化祭、校外では定通生徒秋季発表大会を中心に生徒作品を発表し、音楽部が知事賞を受賞した。(○) ・全授業日の校内外巡回を実施したが、教員数が少なくなる中、次年度以降も工夫して実施したい。(○) ・喫煙生徒率10.3%で目標達成できた。次年度は一層の定着を図る。(◎) ・給食喫食者率は10.0%で達成できなかったが、次年度は食育教育などを展開して向上に努めたい。(△) ・身体計測87.9%、検尿84.7%、内科検診95.7%、歯科検診92.7%、平均は90.3%で目標を上回った。(◎) ・全生徒との懇談を実施できた。(○) ・中学校訪問校数は23校。授業公開を複数回実施し、中学校との連携は強化できた。次年度も強化をさらに進める。(◎) ・N P Oや民間企業とも連携し、外部講師を招いての学びや、職業体験バスツアー等を実施し、計画的にキャリア教育を進めた。次年度も継続して連携を進める。(○) ・1年次の就労率は59%となり目標をやや下回ったが更なる向上に努める。(△) ・進学者を除く卒業生の学校斡旋就職率は40%となり、目標を上方修正するとともに今後も積極的な就職指導に取り組む。(◎) ・商業と情報に係る検定合格率は45.8%であり、来年度は向上をめざす。(△) ・ 中退防止コーディネーターやS S WさらにS CやS Vとともに要配慮生徒に支援できた。次年度は校内体制の確立をさらに進める。(○) ・関係項目の肯定率は80.4%であり、次年度は上方修正したい。(○) ・1年次生の2年次への進級率80%で目標を達成できた。次年度も向上に努める。(○) ・在学4年以内の卒業率は39.3%であり、ほぼ達成できた。(○) ・中退率は12.1%となり、今後も低減に努める。 ・S S W・S Cによる研修を開催し(6/30)、ケース会議を年間40回実施し、支援が必要な生徒へのアプローチについて情報共有が進んだ。(○)</p>
---	---	--	---	--

府立春日丘高等学校

<p style="text-align: center;">3 学校運営体制の改善・充実と地域とつながる学校づくりの推進</p>	<p>(1) ア 教職員研修や支援体制の充実</p> <p>イ 学校運営組織の強化と効率化</p>	<p>(1) ア・国や府の動向を踏まえ、教育に関する研修情報の提供に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権、障がい者理解に係る研修を実施する。 ・産業医等による支援相談体制を充実する。 <p>イ・P D C Aサイクルを活用した校務運営活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題事象への迅速で組織的な対応体制を充実させる。 ・担任、支援教育コーディネーター、S C、S S W等による生徒支援組織を充実させる。 ・全日制との連携・協力体制を充実させる。 	<p>(1) ア・アクティブ・ラーニング、カリキュラムマネジメント、観点別評価等に係る新しい教育情報を提供することができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権研修、障がい者理解に係る研修がそれぞれ実施できたか。 ・「ストレスチェック制度」への理解を深めるための取組みが産業医との連携で実施できたか。 <p>イ・教職員向け学校教育自己診断の関連項目の肯定的意見90%以上を維持できたか。(平成28年度94.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・問題事象への全校的で組織的な対応体制がマニュアル化されたか。 ・必要な生徒へのカウンセリング、ケース会議が充実していたか。 ・定期的な全定合同連絡会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5回の研修及び各教科でのシラバス作成時において情報提供し、共有した。次年度も新課程実施に向けて情報の取得と共有を図る。(○) ・人権研修を第1回9/5、第2回12/5第3回1/23、その他に子どもの貧困についての研修を実施。次年度も同様に研修の機会を持つ。(○) ・産業医との連携を密にし、ストレスチェックについての説明の機会(研修)を設けた(10/2)。今後も理解を深める機会を継続して持つ。(○) ・肯定的意見が90%ではあるが、校務の精選や組織的運営については、今後も検討や改善が必要である。(○) ・問題事象の際には組織的に対応したが、マニュアル化については今後の課題として次年度以降も取り組む。(△) ・必要な生徒へのカウンセリング、ケース会議を随時実施し、次年度も継続して生徒を支援する。(○) ・定例の全定合同連絡会を4回実施し、随時必要に応じて協議を実施した。(○)
	<p>(2) ア 「チームとしての学校」づくり(地域連携や外部機関との連携)</p> <p>イ 学校環境改善の推進</p>	<p>(2) ア・Webページによる情報発信の充実に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会等、定時制高校についての理解を深めるための広報活動をさらに推進する。 ・中高連携や学校公開を充実させる。 ・高大連携を実施する。 ・地域との交流の充実 <p>イ・保護者に積極的に学校の取組みを紹介し、保護者と共通の学校理解に基づく協力体制を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後援会活動の整備・充実に努める。 ・学校協議会の内容の工夫と充実に努める。 	<p>(2) ア・Webページの週1回の更新ができたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や学校行事等の紹介を定期的にWebアップできたか。 ・学校説明会を年3回実施できたか。 ・個別の進学相談会が実施できたか。 ・中学校訪問校数の増加(18校→20校以上) ・高大連携事業の検討・実施ができたか。 ・地域イベントに参加したか。 ・N P O法人、中小企業等との連携イベントが実施できたか。 <p>イ・保護者向け学校教育自己診断の項目「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」の肯定率の向上(60%→70%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者向け学校教育自己診断のアンケート回収率向上(H28年2.6%→15%) ・後援会活動を連携した周年事業支援に関する会議の設置 ・授業や文化祭等の学校行事の参観に加え、新たな連携の取組みを検討・実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間で77回更新を行った。(◎) ・准校長通信を10日ごとに発行し、その他部活動や学校行事の様子を随時掲載更新した。次年度も情報発信を継続させる。(○) ・学校説明会を11月12月1月に実施した。次年度も継続して行う。(○) ・学校公開とともに個別の進学相談の機会を設けたが、相談者は少なく事業を見直す。(○) ・中学校訪問校数は23校であり、学校公開とともに今後も連携に努める。(◎) ・高大連携では大阪大学との協働による日本語指導の必要な生徒に対する支援事業に参加した。次年度は他大学とも連携を進める。(○) ・茨木市立中学のイベントに参加。今後も連携を深める。(○) ・N P O法人とは春定カフェを年間40回実施、中小企業等とは就職支援連携イベント(「大阪・定通生のための、『学ぶ&働く&成長』をつなぐ応援団交流会」5/15)を本校で実施した。次年度も継続して取り組む。(○) ・保護者向け学校教育自己診断の項目肯定率は70%。今後は目標を上方修正し一層の向上に努める。(◎) ・保護者向け学校教育自己診断のアンケートの回収率(16.5%)については今後も方法を工夫し、さらに向上させたい。(◎) ・後援会活動を連携した周年事業支援に関する会議を設置し、第1回会議を実施した(11/30)。(○) ・次年度の学校教育審議会への移行を周知したが新たな連携の取組みについては十分に検討・実施できなかった。次年度に向け、再検討する。(△)